



昨年のサツキ園の様子（6月9日）

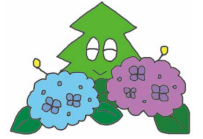
県民の森 だより

6 2019
月号

発行 宮城県 県民の森管理事務所 TEL&FAX 022-255-8801
〒981-0121 宮城県宮城郡利府町神谷沢字菅野沢 41
(指定管理者) 特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会

入園料：無料
利用時間：4月～10月/9時～16時30分
11月～3月/9時～16時

先日まで足元で華やかさを競っていた草本も結実し、来期に向い継承の真最中です。又、月初めに記念館南斜面のサツキ園も見事に紅白の花園を披露してくれ、更に園内は緑を深め、『マタタビ』は葉の表面を白く化粧し花が裏面にある事を示し、『アジサイ』は蕾を日々膨らませ梅雨の時期を迎える準備をしているようです。(所長：蜂谷仁)



ツキノワグマが目撃されています

昨年は5月に8件と多数の目撃情報があったツキノワグマですが、今年度は5月31日現在、1件の目撃情報が入っております(閉園時間後)。

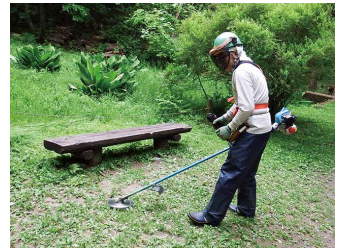
えさを求めて活発に活動を始める季節ですので、ご来園の際は念のため、クマ鈴やラジオなどを携帯されますよう、ご協力のほどよろしくお願い致します。

こどもの日クラフトまつり無事終了

毎年5月5日のこどもの日に開催しております、「こどもの日クラフトまつり」が今年も無事終了致しました。ご参加頂いたみなさまありがとうございました。なお、8月11日(日)山の日には、夏まつりを予定しております！

遊歩道等の刈払作業が始まっております

園内遊歩道等の刈払機による草刈り作業が始まっております。安全には十分配慮しておりますが、近づくると大変危険ですので、作業をお見かけの際はご注意下さい。



今月のけんみんのもり写真館 スタッフが見つけたしぜんのひとコマ



ヤマウルシ (ウルシ科)
山漆

名前は「うるし(潤液)」または「ぬるし(塗汁)」から転訛したようです。樹液に触れるとかぶれます。特に若葉の頃は葉が傷つきやすいので要注意です。漆の原料木は古い時代に中国などから渡来した“ウルシ”です。(駒野)



バイカツツジ (ツツジ科)
梅花躑躅

名前は花が梅の花に似ていることによります。5弁に分かれて平らに開いた花冠はツツジとは趣がことなり、梅花のツツジであるとの命名には納得します。ツツジの花が終わった頃、可憐な花をひっそりと葉陰に咲かせています。(駒野)



コヒルガオ (ヒルガオ科)
小昼顔

名前は花が昼間咲くことによります。コ(小)はヒルガオに比べ葉や花が小さいことによります。ヒルガオは花柄の上部に翼が無いが、コヒルガオには翼があり判別できます。花は夕方には萎んでしまう一日花です。結実はふつうしないです。(駒野)

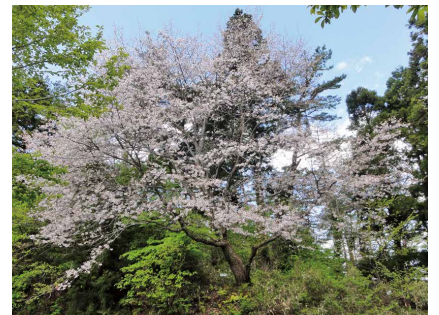


ヤマタツナミソウ (シハナ科)
山立浪草

名前は花が一定方向に向き、花の並びが“立浪”に似ていることによります。“タツナミ”の漢字は葛飾北斎の描いた波頭がモデルになっています。特徴は、茎の上部に青紫色の唇形の花をまばらにつけ、みんな同じ方向に向いています。(駒野)

県民の森名木紹介 vol.55 アカツキザクラ

桜の気配がすっかり消え、周囲の緑が濃くなる5月始めに、やおら花を咲かせる一本の桜が中央記念館正門前にあります。アカツキザクラという桜です。オオヤマザクラとカスミザクラの自然交配種



とか。開花時期、花の色、樹形など両種の特徴が引き継がれている事から同定されたようです。

道路沿いで、緑の中に咲かせるため、良く目立ち存在感抜群な一本です。(工藤)



コサメビタキ (ヒタキ科)

全長 13cm。くっきりとした黒い大きな瞳が印象的です。上面は灰褐色、胸は白っぽく見える淡い灰褐色で、県民の森近辺でも見られます。よく似たサメビタキは上面は濃い灰色で、標高の高い山で見られます。(入岡)



オオルリ(左)・キビタキ(右)

派手なオスに比べて目立たないメスたちですが、それぞれ特徴があります。オオルリは全長16cmで上面は茶褐色、キビタキは全長13cmでオオルリより一回り小さく、上面はオリーブ色がかった褐色、尾羽は茶褐色です。(入岡)

※野鳥写真撮影：すべて高橋政彦さん

イベントのスケジュールなどは裏面「6月・7月のイベント情報」をご覧ください